森づくり作業計画書(案)

NPO法人緑のダム北相模　№

作成日	2004年 9月 1日	修正日	年 月 日	修正日	年 月 日	確定日	月 日
作成者	林 将之	作成者		作成者		責任者	印

場所	広域流域		森林計画区		市町村		字		所有者	鈴木 重彦 印			備考
	相模川	18	神奈川県	050	相模湖町	423	若柳			(在)・不在			
森林の情報(コード)	林班	小班	森林の機能	森林の種類	面積ha	林種	樹種	林齢	齢級	平均樹高m	材積m³	成長量m3	
	21	860		資源利用林	0.57	人工林	ヒノキ	37	8	3	106	5	

期間	2005年 6月 ～ 2020年 5月 (15 年間)
作業の名称	巻き枯らし間伐実験

森づくりの基本的な方向性

＜どのような森づくりを目指すのか＞

●巻き枯らし間伐により、健康木への病虫害が増えるかを確かめる。
●巻き枯らし間伐を行った林と、通常の伐り倒し間伐を行った林を比較し、林業面・自然環境面からメリット・デメリットを調べる。
●神奈川県における巻き枯らし間伐の先進的実例を作り、有効であれば将来の他の林への応用を検討する。
（NPOの事業拡大につながる可能性も）

＜主な作業内容＞

1．形状比※80以上の過密状態にあるヒノキ林およびスギ林を実験区とし、各20×20m程度の方形枠を設定し、毎木調査（胸高直径、林高測定）を行う。その際、同条件同面積の比較区をやや離れた場所に設ける。
2．実験区内の木を形状比70以下にすることを目標に、適切な本数に対し初夏に環状剥皮を施す。比較区では、同じ本数だけ通常の切り倒し間伐を行う。
3．以後、当年秋および1年おきに調査を行い、枯損状況、病害虫の発生、林床植生、比較区との差異等を記録する。

作業工程(5年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2005年度												
2006年度												
2007年度												
2008年度												
2009年度												

長期的な計画

10年後	毎木調査　各区10本間伐　病虫害調査
30年後	15年後を目安に実験終了。以降は周辺の森林と同様の管理を施す。
50年後	

留意事項

＜環境保全上の留意事項＞	＜法規制上の留意事項＞	＜作業安全上の留意事項＞

その他参考事項

＜背景や動機＞近年注目されている新しい間伐方法「巻き枯らし(環状剥皮)」は、いわゆる「線香林」状態にある過密なスギ･ヒノキ林について、風雪害を最小限にとどめた間伐を行うことが可能といわれ、作業が簡単で安全に行えるため、少人数少時間でも導入しやすいといったメリットがある。しかし、病虫害が増えるという指摘があることや、自治体の補助金対象になりにくいため、まだ実例は少ない。一方嵐山には、この先何年も手入れできないと思われる林が多くあり、こうした林の活用や、より効率のよい間伐方法の導入を検討する余地もある。そこで、巻き枯らし間伐を実験的に導入し、その実効性を確認してみることを提案する。
●岐阜県森林科学研究所の大橋章博氏は、立ち枯れの木が増えることでキバチ類をはじめとした穿孔虫が増える危険性を指摘している。キバチ類の幼虫は健康な木には生育できないが、共生菌が健康木にも侵入し、材の断面に星形の変色模様が現れる被害が報告されている。
●神奈川県環境農政部林務課によると、神奈川県における巻き枯らし間伐の実例は現時点でほとんどなく、助成金の対象にもなっていない。
●埼玉県では、2002年度から行われている緊急雇用対策間伐事業において、巻き枯らし間伐と列状間伐が推進されている。これにより、従来より大面積の間伐が可能になっている。
●高知県では　2004年度から「簡易間伐」として巻き枯らし間伐が補助金の対象に含められた。
●巻き枯らし間伐の具体的手法については、おおよそ鋸谷式の手法に準拠する。参考文献「図解 これならできる山づくり 人工林再生の新しいやり方」（鋸谷茂・大内正伸／農文協／1950円）など。

計画に対する意見と議論

受付日	コード	内容	対応日	議論・回答